



青少年育成部会

子どもたちに笑顔を 夜間巡視や見守りを実施

弦打校区コミュニティ協議会青少年育成部会は、地域の青少年が心身ともに健やかに成長することのできる環境づくりを基本とし、青少年問題や青少年を取り巻く社会環境について周囲の理解と関心を深め、地域ぐるみで子どもを見守り育てる活動、非行防止活動、看板の点検等の環境整備を実施しています。

子どもを守る活動として、青色パトロールの運行や小学校登下校時の見守り、月1回の夜間巡視を実施しています。そして年1回、環境美化部会、交通安全防犯部会と合同で青少年健

全育成設置看板の確認と周辺の美化活動を実施しています。部会員は子育て世代の方も多く、お子さん連れで部会や行事に参加してくれています。子どもたちの笑顔のためにできる事を、子育て世代でも楽しく親子で関われる行事を、またコロナ禍でも安全に楽しんで活動していける部会づくりを目指しています。

部会は原則として、毎月第4火曜日の午後7時半から開催しています。少しでも関心がありましたらぜひ、参加をお待ちしています。

青少年育成部会長 松浦一郎

構成団体 弦打校区青少年健全育成連絡協議会、弦打小学校PTA、弦打幼稚園PTA、弦打保育所あゆみ会、弦打地区民生委員児童委員協議会、一般部会員

リサイクルの過程学ぶ

高松市が実施する「脱炭素型ライフスタイル推進モデル事業」に、弦打校区コミュニティ協議会（環境美化部会）の提案が選定され、弦打校区放課後つるピー教室、小学校・幼稚園・保育所PTA、キッズクラブの共催で、校区の児童・生徒、保護者を対象にリサイクル工場を見学する事業を実施しました。

近年、台風の巨大化や集中豪雨等による災害、猛暑など、「気候危機」と言われる状況が続いています。その気候危機の原因となるのが、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出です。そこで、高松市は「ゼロカーボンシティ」を宣言し、温室効果ガス排出の約6割を占める家計消費を見直し、市民のライフスタイルの転換を図る取り組みを行っています。

今回、弦打校区が行う事業は、ゼロカーボンシティ達成の目標年次である2050年に、社会の中心を担う子どもたちに脱炭素型ライフスタイルの重要性を理解してもらうため、その取り組みの1つであるプラスチックリサイクルについて学びました。

昨年8月6日のリサイクル工場（株式会社リソーシズ）見学では、プラスチックごみや、缶・びん・ペットボトルがリサイクルされるまでの過程を見学しました。中でも印象的だ

校区の児童ら工場見学



弦打校区の子どもたちが参加、ごみのリサイクル過程を学んだ

ったのがプラスチックごみを、人の手でリサイクル可能なものと不可能なものに分別しているということです。汚れが付着しているものは異臭を発しており、リサイクルできずに焼却されます。そして、その際に二酸化炭素が排出されていることを知りました。

今回、参加した子どもたちが学んだことは、夏休みの自由研究など様々な機会を通じて発表していきたいと思います。そして、地域全体でゼロカーボンシティの実現に向けた取り組みを推進していきたいと思います。

（記事・写真・弦打校区コミュニティ協議会環境美化部会）

るうち

広報

第22号

写真特集

2023
1

発行：弦打校区コミュニティ協議会
〒761-8032 高松市鶴市町356-3
TEL.087-882-0285
つるうち.ネット <https://www.tsuruuchi.net/>

令和5年1月号

校区イベント 徐々に再開

2年ぶり、ふれあい文化祭

地域の皆さんの交流の場、また文化活動の日頃の成果を発表する場として毎年盛大に行われている「弦打地区地域ふれあい交流事業文化祭」（主催・同実行委員会）。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大のため見送られていましたが、令和4年10月30日、さわやかな秋晴れの下、弦打小学校体育館にて2年ぶりに開催されました。

英和明副会長の開会宣言、大西輝清会長の挨拶のあと、青木自治会獅子組による勇壮な獅子舞がオープニングを飾り、続いて大正琴など楽器の演奏やコーラス、優雅な演舞、子ど



日頃の活動の成果を発表した文化祭

3年ぶりの地区運動会

快晴の昨年10月16日、令和元年5月以来の弦打地区運動会が弦打地区体育協会主催、各種団体共催で行われました。

コロナの影響で競技種目と時間が制限される中でも、プログラムの自由参加の部では、幼児と保護者、シーガルススポーツクラブやスポーツ少年団、元気いっぱいの小学生と卒業生たち、地区の男女が「防災クイズ」「ジャンケン王はだれだ?」「初めてのお使い」「綱引き」「障害物競走」「ジャンボトンリレー」「フライシートリレー」に挑戦し、みんな楽しくプレーしていました。

また、自治会対抗競技では「ディスタンス玉入れ」「輪投げ」「ホールインワン」のそれぞれの優勝自治会は大暮、大暮、本村でした。昼前に、無事閉会となりました。

軽快なリズムが体育館に響いた讃修流締太鼓の演奏



もたちの元気いっぱいのダンスなど、老若男女を問わず活気のあるステージにたくさんの拍手が送られていました。

今年は作品展示も同会場で行われ、絵画、書道、絵本、刺繍、洋服など、工夫を凝らした色とりどりの作品が花をさかせました。運動場では、キッズクラブによる射的と輪投げ、保健福祉部会によるリサイクル制服・体操服の配布が行われました。オープン前から列ができており、多くの子どもたちと保護者の方で賑わっていました。

今年度も規模を縮小しての開催でしたが、あちらこちらから「久しぶりやなあ」「元気にしょんな」などの会話が聞こえ、地域の皆さんの和やかな交流の場となりました。

実行委員をはじめ、ボランティアスタッフ、地域の企業・団体、校区の皆様の協力により成功裏に終わりました。

今年は1日中熱戦にわき、大応援団の歓声が青空に響く大運動会を開催したいものです。



3年ぶりに開かれた弦打地区運動会。
大人も子どもも元気いっぱい



どんと大輪の花 間近で

弦打校区コミュニティ協議会とつるうちキッズクラブが中心となり、令和4年7月31日午後8時より、感染拡大防止のため場所は公表せず、飯田運動広場で約250発の花火を打ち上げました。

「つるうち夏のまつり」は2回目ということもあり、地域の皆さんの関心も高く、「花火を家の近くで見られるのはとても楽しみ」との声があちこちで聞かれました。資金面でも昨年度を上回る協賛をいただき、昨年度の課題であった警備についても、周辺住民の皆様に理解と協力をいただき、スム

夏のまつり

ーズに運営することができました。

メインの花火である銀禿（ぎんかむろ）が夜空に大輪の花を咲かせた瞬間は、地域のあちこちで歓声が上がり、拍手も聞かれました。

キッズクラブ役員は「多くの人に支えられて無事に花火を打ち上げることができた。来年度は、皆さんからいただいた『もっとたくさんの花火が見たい』という要望にお応えできるよう、昨年以上に頑張っ

今回の防災キャンプを通して、キッズクラブでも災害時に必要な物を揃えていこうと考えています。



パーテーションをみんなで協力しながら組み立てた＝弦打小学校体育館

「思ったより寒かった」 つるうちキッズクラブが防災キャンプ

つるうちキッズクラブでは、児童対象の防災の学びを目的とした「キッズ防災キャンプ」を毎年実施しています。

昨年も11月5、6日に実施し、災害時に避難所となる小学校の体育館で、実際に使用するパーテーションやエアベッドを子どもたちが協力しながら組み立て、避難所でのルールや過ごし方を学び、1泊しました。思ったよりも体育館が寒く、子どもたちは「毛布が欲しい」「眠れない」と寒さ対策に苦

避難所開設手順を確認

昨年11月13日、弦打校区自主防災訓練（主催＝弦打校区コミュニティ協議会・防

校区自主防災訓練

昨年11月13日、弦打校区自主防災訓練（主催＝弦打校区コミュニティ協議会・防



ビニール袋を使い米の炊き方を学んだ日本赤十字社地域防災セミナー

■災害に備え日赤セミナー
日本赤十字社地域防災セミナーが日赤奉仕団弦打分団・つるうち婦人会の主催で昨年10月9日、弦打コミュニティセンターで行われました。

いきいき人生 ～輝くシルバー世代～ 第11回

すみれ会は弦打校区放課後つるピー教室にボランティアとして来ていただき、子どもたちに折り紙を教えてくださいました。また、校区の文化祭にも手芸の作品を毎年多く出展されています。ご存じの方も多いと思います。

取材班はそのすみれ会を令和4年9月6日、青木集会所に訪ねました。

会の代表は松本利江さん。会員は高田靖子さん、明石英子さん、奥原志津子さん、梶真知子さん、川崎政信さん、神高幸子さん、窪田百合子さん、白石和代さん、大

すみれ会（飯田町青木）

門鈴娃さん、松川加代子さん、松村久仁子さん、山本敏子さん、山本初枝さんの14人。年齢は68歳から88歳で平均年齢は80歳以上だそうです。

会の発足は20年ほど前、葵クラブ（青木地区老人会）の中から女性の一部の人たちが集まり、やさしい名前がいいとして「すみれ会」と名付け、これまで活動が続いています。



昨年11月に行われた葵クラブの食事会。すみれ会の会員が調理した生そばなどを地区のお年寄りたちに振る舞った



「すみれ会」の皆さん＝昨年9月撮影

活動は毎週月曜日の午前、年間50回開くのが目標で、「みんなが先生で、みんなが生徒」。先生（講師）は呼ばない決まりで、好き放題言えて仲が良い。

活動の内容は手芸と料理で、手芸ではてまり・折り紙・造花など。料理ではおにぎり・焼きそば・ぜんざい・カレー・田舎そば・うどん・稲荷ずし・おでん等と内容は豊富で、中でも季節に合わせたものに力を入れ、夏の野菜がいっぱい入ったカレー、お盆にはだんご、冬になるとしっぽくうどんやそばを作ります。そして、青年会が主催の12～1月の餅つきにはお手伝いに参加をし、餅は青年会が近くの老人ホームや来訪の子どもたちにも配ります。そして、鏡開きには、ぜんざいを作ってふるまいます。

現在は新型コロナウイルスのため中止していますが、地区の90歳以上の高齢者や寝たきりの方の訪問もしていました。

昨年7月の香東川河川敷（飯田町）で行われた「つるうち夏のまつり」の花火では、高月池堤防に大勢の人が集まっていて、池に子どもが落ちないように、池べりの青木集会所で集まった人たちにお接待をしたそうです。

会の活動について、毎週集会所を自由に使わせてもらい、自治会・自治会長の協力、応援を大変ありがたく思っているとのことでした。

令和3年9月には、日頃の活動が評価され、香川銀行高齢者生涯学習振興基金から助成を受けています。

次回は何をするかはみんなが好き放題に発言する中で決めます。今回の活動は焼きそばづくり。取材が終わるとみんなで素早く調理をして楽しくいただきました。

ますますの発展を祈念して、集会所を後にしました。（取材班・川崎正視、串田悦子、明石佐都子、藤村豊博）

弦打小学校体育館で行われた避難者受け入れ訓練

